

令和四年度一般選抜

個別学力試験問題(前期日程)

国語

注意

- 一、問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 二、問題紙は十二ページ、解答用紙は一枚です。指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 三、答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 四、解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 五、試験終了後、問題紙は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(注) ウォーター・ホール——小さな池・水たまり

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(港千尋『第三の眼 デジタル時代の想像力』による)

問一 傍線部1～4を漢字に書き改めよ。

問二 傍線部A「文字は「染み」を作るものである」とは、どういう意味であるのか、簡潔に説明せよ。

問三 傍線部B「文字通りの「無限の本」について、「砂の本」が「無限の本」であることは、書物が本来有する特徴に基づくものであると考えられる。それを本文中から十二字以内(句読点を含む)で抜き出せ。

問四 傍線部C「ドリーミング」はまず自然現象についての物語である」とあるが、これ以外の「ドリーミング」の特徴を本文中から探して記せ。ただし書き出しを「ドリーミングは」の形とすること。

問五 傍線部D「この広大な土地は」一冊の書物なのだ」とある。この意味するところを本文に即して以下のように説明した。
文中の空欄 に入る適語を本文中から抜き出しなさい。

・アポリジニにとって「ドリーミング」という紋様は、単なる絵ではなく、祖先から受け継がれてきた でもある。そしてそれは彼らの住む と強く結びついたものでもある。彼らは「ドリーミング」を通じて、さまざまな知識をそこから獲得する。それは物質である一冊の書物から読者が の「読み」を可能とするあり方と同じである。

二

次の文章を読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(今井むつみ『学びとはなにか―探求人になるために』による)

問 「行間を補う」とはどのようなことか、自身の体験に基づいて具体的に述べよ、ただし、「スキーマ」ということばを必ず使うこと(解答は解答欄をほぼ満たす程度とすること)。

下書き用

A large rectangular box with a solid black border. Inside the box, there are seven vertical dashed lines, evenly spaced, creating eight columns for writing. The lines extend from the top to the bottom of the box.

三

次の文章を読んで、問いに答えよ。

大納言なりける人、日ごろ心をつくされける女房のもとにおはして、物語りなどせられけるが、世(注1)に思ふやうならで、明けゆく空も、なほ心も(注2)となかりければ、あからさまのやうにて立ち出でて、隨身(注3)に心をあはせて、「今しばしありて、『まことや、こよひは内裏(だじり)の番にて候ふものを。もしおぼしめし忘れてや』と、おとなへ」と教へて、内へ入りぬ。

そのままにしばしありて、こちなげ(注4)に、隨身、いさめ申しければ、「さる事あり。今夜はげに心(注5)おくれしにけり」とて、とりあへず急ぎ出でんとせられけるけしきを見て、この女房心得て、やがて、いとうらめしげなるに、をりふし、雨のはらはらと降りたりければ、

ウ 降れや雨雲の通(かよ)路見えぬまで心そらなる人やとまると

優(い)なる気色(けしき)にて、わざとならずうちいでたりけるに、この大納言、何かの事はなくて、その夜とまりにけり。(エ)後までもたえず訪れられけるは、いとやさしくこそ。(注6)

かく申すは、後徳大寺左大臣と聞こえし人のことかや。

〔今物語〕による

(注1) 世に思ふやうならで——せっかくの逢瀬なのに気持ちがあまり通い合わなくて

(注2) 心もとなかりければ——気がせいじれったくなつたので

(注3) 隨身——護衛のためにつけられる武官、または従者 (注4) こちなげ——いかにも気の利かない様子

(注5) 心おくれしにけり——うっかりしていた (注6) やさし——上品・優美で風情がある

問一 傍線部ア「あからさまのやうにて立ち出でて」を、主語を明示して口語訳せよ。

問二 傍線部イについて女房が心得た内容を説明せよ。

問三 傍線部ウの和歌の「心そらなる人」は誰のどのようなことを指しているか、説明せよ。

問四 傍線部エについて大納言がこのような行動をとったのはなぜか、説明せよ。

四

次の文章を読んで、問いに答えよ。(設問の都合で送り仮名・返り点を省いたところがある)

師徳寛厚清慎、犯おかし而不か撓せ。弟除セラル代州刺史。師徳謂ヘラク「兄弟榮
 寵過盛、人所に疾也。何以テカ自免カレント」弟曰ク「自1今人雖2唾つばきスト某面、拭ぬぐ之
 而已ト」師徳愀然せうぜんトシテ曰ク「此所以ス為ガ吾憂ヘト也。人唾スルハ汝面、怒レバ汝也。而ルニ
 拭ハバ之、則チ逆ヒテ其意而重ネン其怒リラ矣。唾ハ不ルモ拭ぬぐ自乾カン。当笑而受之耳ト」

(曾先之『十八史略』による)

(注) 師徳——婁師徳(六三〇〜六九九)。唐代の宰相、武將。 撓——争うこと。仕返しをすること。

除——任命される。 代州——現在の山西省北部にあつた行政区画。

刺史——州の長官。 愀然——顔色が変わる様。

問一 傍線部1「自」、2「雖」、3「而已」の読みを答えよ。送り仮名があれば、送り仮名を含めて答えよ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問二 傍線部A「免」は、何を免れるというのか。

問三 傍線部B「当笑而受之耳」は「まさにわらひてこれをうくべきのみ」と訓読する。

ア 原文に返り点をつけよ(送り仮名不要)。

イ 師徳は、なぜこのようにすべきだといっているのか、簡潔に答えよ。